

俺の名前は青木清。探偵だ。

3月上旬、春めいた月夜に、  
一本の調査依頼の電話が入った。

「相模屋という店を調べてほしい。」



相模屋一家

夜7時を過ぎた頃、俺は店の前に立った。歴史の風格を思わせる店構え、そして暖簾には「相模屋」とある。間違いない。この店だ。

俺が店の引き戸を開けると、「いらっしゃいませ」とおじちゃん、お婆ちゃん、そして息子のトシさんが迎えてくれた。客はすでに2人いた。

店内には4人掛けのテーブルが3つ、6人掛けのテーブルと8人掛けのテーブルがある。テレビが1台、そして石油ストーブがやかんでお湯を沸かしている。

俺は瓶ビールと親子丼（ライス少なめ）を注文した。

トシさんが言うには、この店はそばやうどん、丼物の他に、ラーメンも品書きにあるらしい。それからこんなことも教えてくれた。バイクで出前もやっている。そう言えばバイクで久地を駆け抜けるおじちゃんやトシさんを見かけることがある。揺れる岡持ちが渋い。

親子丼がやってきた。半熟卵と鶏肉のたね、そしてライスにはさまれた1枚のノリが絶妙だ。俺はがっつりと飲み込むように完食した。

夜も8時を過ぎ、そろそろ店仕舞の時間らしい。

俺は店を後にした。月夜を見上げ「そろそろ桜の咲く頃だ」とつぶやいてみた。

## ■相模屋そば店

営業 : 昼11:00~14:30、夜17:00~ラストオーダー20:00

出前 : 有り

定休日 : 金曜日

住所 : 神奈川県川崎市多摩区堰2-2-3

電話 : 044-833-9021